



「サザエさん」の  
マスオさんの  
声でおなじみ!!

俳優・声優  
ますおか ひろし  
**増岡 弘**さん

プロフィール  
1936年岩槻区(旧岩槻市)生まれ。二科展に史上最年少で入選、文化学院で油絵を学び舞台美術の仕事に就くが、20代半ばから俳優・声優に転向する。私生活では、1979年、手づくり味噌をつくる自然法人「みそひともんちやく」を結成し、120人の家族会員間で会報を発行し品評会を行う。また、人生経験を買われ、「マスオ流男女共同参画の話」「人生は舞台、あなたは主役」といったテーマの講演を行う。

## 100点満点でなくても 幸せな家族のかたちがあります

サザエさん一家にみる  
幸せのかたち

声優 増岡弘さんは、TVアニメ「サザエさん」のマスオさん、「それいけ!アンパンマン」のジャムおじさんの声でおなじみです。マスオさんの声を演じて38年、ジャムおじさんは23年になります。もとは舞台美術が専門でした

が俳優に転向し、さらに創成期のテレビアニメが登場するのをきっかけに声優への道を進みました。

「サザエさん一家は欠点だらけの大家族。それでも今では『理想の家族』などと言われています。サザエさん一家はこの数十年間、何も変わっていないはずなのですが…。互いに理解し尊重しあって暮らすことが理想的な家族のかたちですね」と語ります。

が低いのだと思います。現代は何にでも「100点満点」を求める社会です。100点でないとも幸せを感じられなくなってしまうように思えます。カツオくんを見てください。テストでいつも30点くらいしか取れていませんが、生き生きと活躍しているではないですか。優等生でなくても、多くの友達に慕われ、とても良い信頼関係を築いています。サザエさんでは、こうした雰囲気づくりを大切にしているんだね」

生活の基本は「手づくり」にあり

「実は、声優は副業、本業はお百姓です」と意外なことを言います。40年ほど前に自身でログハウスを建て、その庭の畑を耕すという、ほぼ自給自足の生活をしています。「ジャムおじさん」は実際の生活でもジャムを手づくりし、味噌も岩槻に古くから伝わる味噌屋を手づくりしているそうです。「食は人に良いと書きます。健康を支える基本ですから大切にしなければいけませんね」

干す幸福感は誰にも譲りたくないほどです。ぜひ皆さんにも体験してもらいたいですね」

「妻は結婚当初料理の経験がほとんどなく、私のほうが手際も良かったんです」と、笑顔で語る増岡さん。それぞれ得意なことを分担し、苦手なことは補い合うという夫婦の様子をつかがい知ることが出来ます。

舞台でのチャレンジは  
続く…

今後の活動については、「役者や声優を志す若い人たちが養成されています。今は、大勢で朗読をする『群読』(※1)にも力を入れていて、『鉄道員(ぼっぼや)』などの作品がある浅田次郎の著作権に関する作品を群読して回っています。いろいろな方に『感動した』と言ってもらえることが喜びです」と語ります。

仕事に興味に生き生きとした日々をおくる増岡さん。今後も、その独自のライフスタイルで充実した日々が続くことでしょう。

※1:「群読」とは、複数の読み手によって朗読を行うこと。登場人物を演じる俳優と地の文を語るナレーターなどによって構成され、「聴く演劇」とも言われる。

## 地域における男女共同参画

### 地域活動への高まる期待と多様な要望

地域(地域コミュニティ)は家族と同様、私たちにとって、最も身近な暮らしの場として重要です。

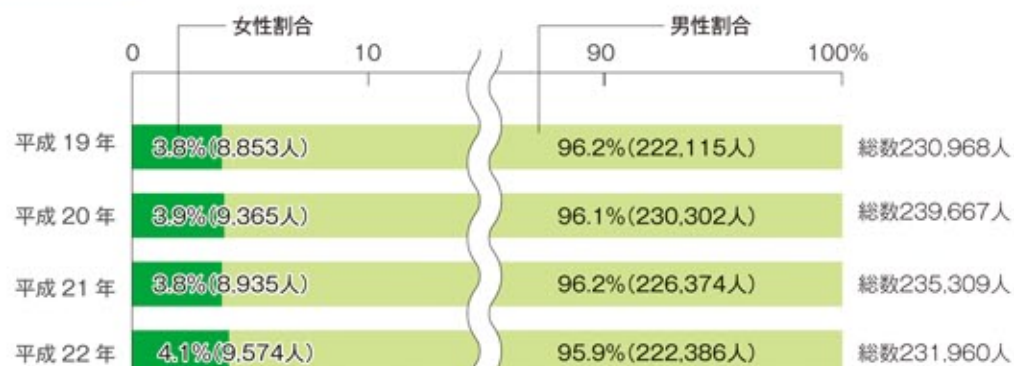
しかし、現代は人間関係の希薄化が進み地域のつながりが弱くなってきていると言われています。

一方、核家族や単身世帯の増加が進むことで、防犯活動、子育て支援活動、高齢者の見守り活動など、地域活動への期待は強まっており、その要望も多岐にわたっていると云えます。また、この度

の東日本大震災の教訓として、地域の絆は不可欠であることを改めてうかがい知ることとなりました。

その地域の力(地域力)を高めるためには、多様な視点を反映した地域運営が必要です。特に、地域の生活に根ざした女性の視点を生かし、地域の実情にあったニーズに的確に対応するためには、地域における「決め事」の場に女性の参画が、ますます求められています。

自治会長の男女比



※資料:内閣府「女性の政策・方針決定参画状況調べ」(平成23年1月)より。  
(注)調査時点は各年4月1日現在の自治体が多いが、事情により時点が異なる場合もある。

### 求められる女性の政策・方針決定過程への積極的参加

内閣府の「女性の政策・方針決定参画状況調べ」によると、自治会長に占める女性の割合は全国で図のように低い状況です。さいたま市でも平成23年4月1日現在、6%となっており、男女双方の声が反映されているとは言えない状況です。

その背景には、男女の性別役割分担意識が固定化し、女性が自治会や地域の役員に就くという認識が低いという現状があるからかもしれません。

国は地域における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大を目指し、平成27年までに自治

会長に占める女性の割合を10%にすることを目標としています。

男女がともに地域の活動に参画することは、多様な主体、視点をもつという観点から、地域の活性化、暮らしの改善のために必要不可欠と言えるでしょう。

今後は特に、女性も地域活動の一員となるだけではなく、その政策・方針決定過程に積極的に参画することが期待されています。